

坂井市海浜自然公園再整備基本構想

2022年3月

目次

1	はじめに	
1-1	坂井市の現状	3
1-2	坂井市海浜自然公園の立地	4
1-3	構想策定の背景・対象区域	5
1-4	課題整理	6-8
1-5	課題解決の方針、考え方の整理	9
2	構想の考え方	
2-1	コンセプト	10-11
2-2	関連計画との整合性	12-13
3	再整備基本構想	14
3-1	現況との比較	15
3-2	進行計画	16
3-3	施設について メイン棟	17
3-3-1	施設について メイン棟:現況比較	18
3-4	施設について キャンプ場	19
3-4-1	施設について キャンプ場:現況比較	20
3-5	施設について 駐車場	21
3-5-1	施設について 駐車場:現況比較	22
3-6	施設について バーベキュー、屋根付き広場	23
3-6-1	施設について バーベキュー、屋根付き広場:現況比較	24
3-7	施設について 公園設備	25
3-8	施設について ロッジ	26
3-8-1	施設について ロッジ:現況比較	27
3-9	施設について 芝生広場	28
3-9-1	施設について 芝生広場:現況比較	29
4	資料 主な現況施設について	30

1 はじめに

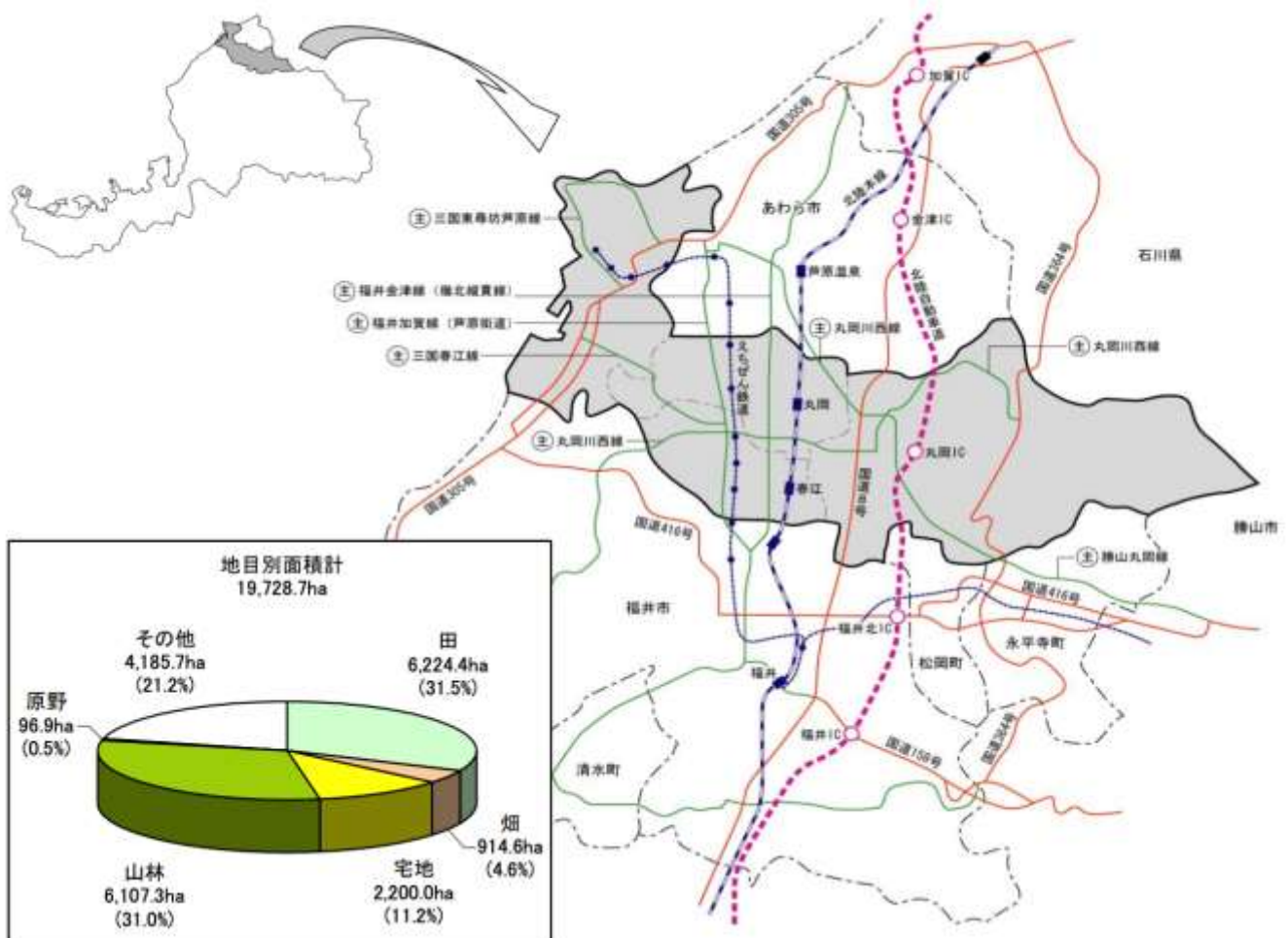
1-1 坂井市の現状

坂井市は福井県の北部に位置し、平成18年3月20日に坂井郡の三国町・丸岡町・春江町・坂井町、4町が合併して誕生しました。南北に約17km、東西に約32kmにおよぶ東西に長い行政区域で、総面積は約210km²です。西は日本海に面し、東は勝山市、北はあわら市及び石川県、南は福井市及び永平寺町に接しています。

坂井市の南部を九頭竜川が、東部の森林地域を源流とする竹田川が北部を流れ、西部で合流し日本海に注ぎ込んでいます。中部には福井県随一の穀倉地帯である広大な坂井平野が広がり、西部には砂丘地および丘陵地が広がっています。

土地利用を地目別にみると、田畑が約34パーセント、山林が約30パーセントを占めており、豊かな自然環境に恵まれています。

道路網は、東部に北陸自動車道・丸岡インターチェンジや国道364号、西部に国道305号、中部に国道8号、主要地方道福井金津線(嶺北縦貫線)および主要地方道福井加賀線(芦原街道)が走るなど、主要な基幹道路が南北方向を中心に発達しています。また、鉄道網も坂井市の中央を南北に走り、JR北陸本線が2駅、えちぜん鉄道三国芦原線が9駅設置されています。



※出典:第二次坂井市総合計画

1-2 坂井市海浜自然公園の立地

- 坂井市三国町安島に位置し、日本海と松林からなる広大な自然公園です。
- 福井県随一の名勝「東尋坊」から徒歩約20分、車で約3分の距離です。
- 越前加賀海岸国定公園に属しており、恵まれた自然環境です。
- バーベキュー場、キャンプ場を有します。
- アクセスは、北陸自動車道金津IC、えちぜん鉄道芦原線三国港駅、京福バス東尋坊線が芦原温泉駅から運行されています。



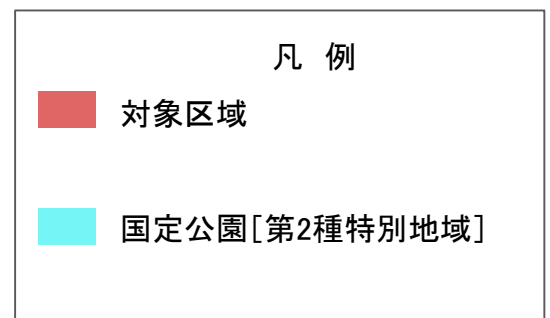
坂井市海浜自然公園の位置関係

1-3 構想策定の背景・対象区域

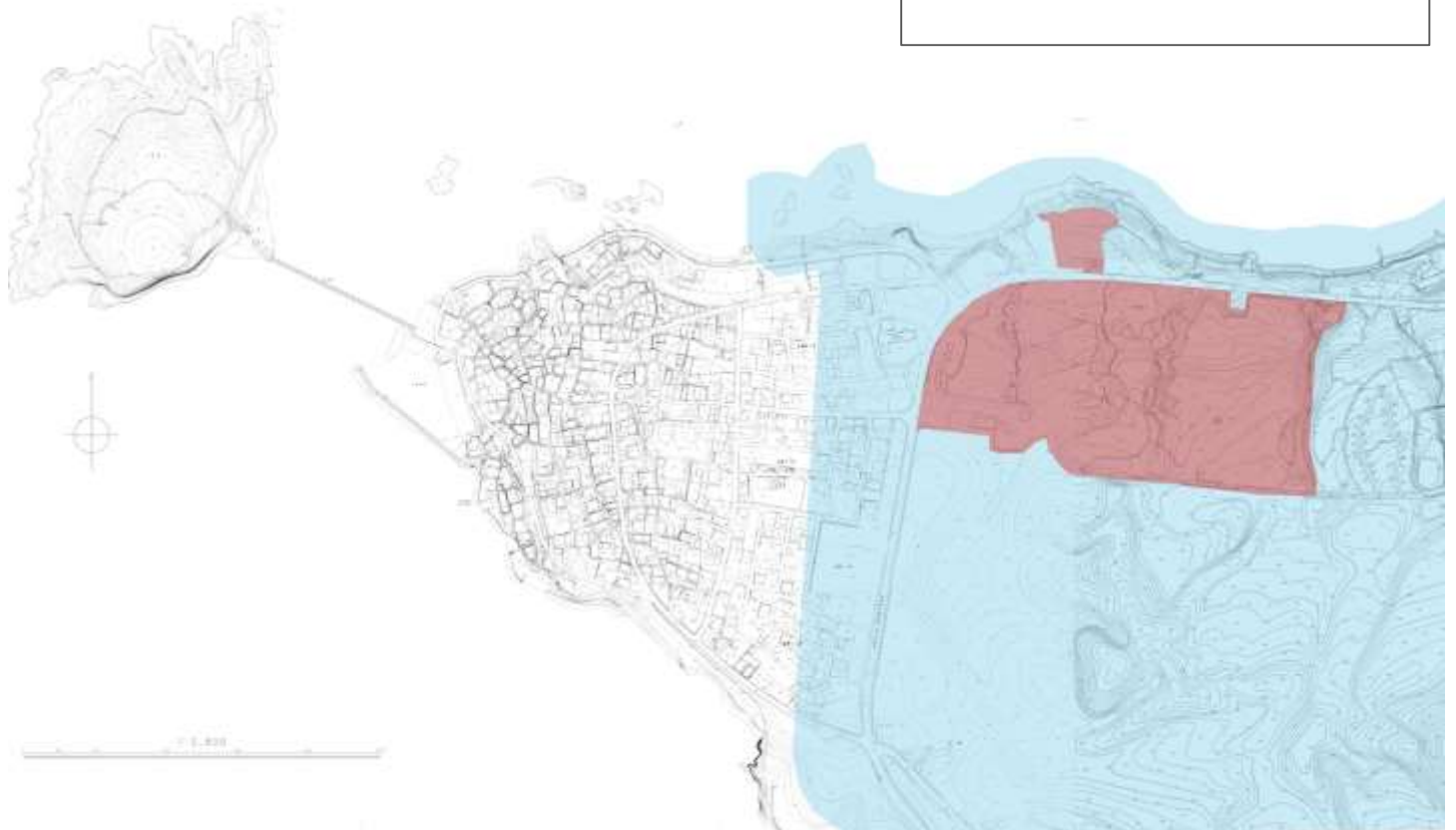
坂井市海浜自然公園は、雄大な日本海と松林からなる総面積約23万㎡を誇る広大な自然公園であり、年間約20,000人が利用する坂井市における有数の観光地でもあります。

しかし、整備から30年以上が経過し、施設の老朽化が顕著となっていることや、多様化する利用客のニーズに対応できていない状況が見られるようになってきており、更なる利便性や安全・安心な施設としての魅力を向上させるための再整備が求められています。そこで、利用者のニーズに対応し、誰もが安心・安全、快適に利用できる施設とするために再整備を検討する必要があります。

なお、対象となる区域及び土地利用等の法令上の位置づけについては、下図の通りです。



対象区域図



1-4 課題整理

坂井市の総人口は、平成17年(2005年)の92,318人をピークに減少が続いています。日本全体の人口が長期的な減少期にある中、この傾向が今後も続くと想定すると、坂井市の人口、令和12年(2030年)には82,400人となり、平成27年(2015年)の90,280人よりも7,880人減少することが予測されます。(第二次坂井市総合計画より引用)急激な人口減少を防ぐため、転出者の減少および転入者の増加を促していくことが重要です。

また、東尋坊や丸岡城をはじめ県内有数の観光地を誇る坂井市は、観光客数は多いものの、その受け皿となる宿泊施設が少ないことにより滞在時間が短く、近隣の市町等に観光客が流出していることも坂井市の抱える課題です。



総人口の実績の推移及び将来人口 (資料: 国勢調査(実績))



出典: 住民基本台帳(4月時点・H18は合併日3/20時点のデータ)



丸岡城



東尋坊

※出典: 第二次坂井市総合計画、三国グランドビジョン

1-4 課題整理

坂井市海浜自然公園は、広大な敷地を誇り、景観・自然環境が素晴らしく、他に類を見ない魅力を秘めた施設ではありますが、老朽化が顕著なこと、広大な敷地において利用動線が不明瞭で利用しづらいこと、宿泊施設が十分に整備されていないことなどの課題が散見しています。

また、これまでに大規模な改修は行われておらず、利用用途や目的が時代のニーズに合わないことも大きな問題です。例えば、坂井市海浜自然公園内には、遊具広場などが設けられており、子ども連れの若い家族層が利用できる場所として整備されているにもかかわらず、ほとんどの人がその存在を知らないことが下記の調査結果から読み取れます。

さらに、利用者の7割以上が前回の利用が10年以上前であり、頻繁に利用する人は僅かであることから、現在の施設では多くの人にとって、魅力的な施設となっていないことが分かります。

【調査データ】

調査期間:2021年10月～2022年3月

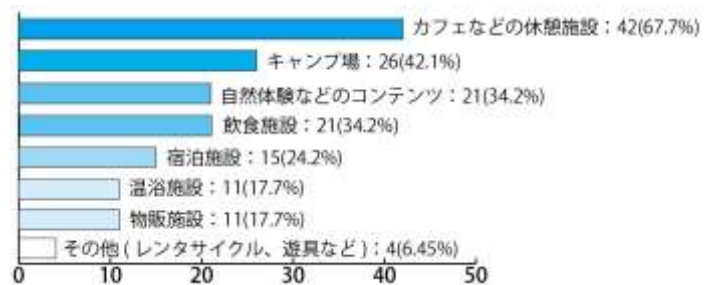
調査対象:坂井市海浜自然公園利用者他

サンプル数:62

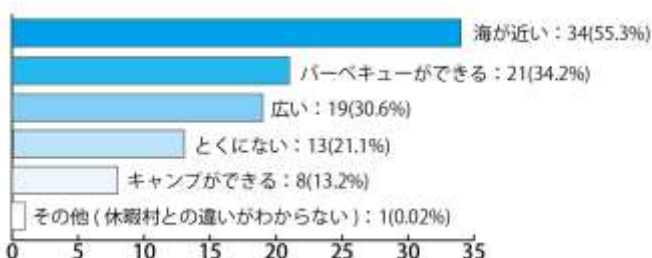
(ア) 坂井市海浜自然公園を利用したことが



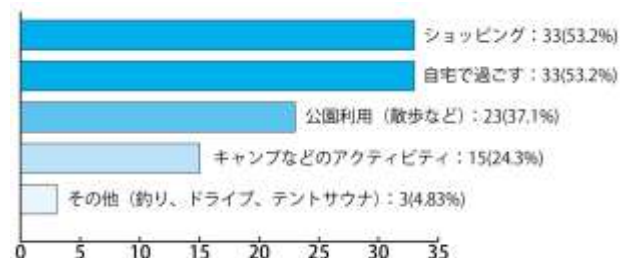
(ウ) 坂井市海浜自然公園に求める施設設備やコンテンツ ※複数回答可



(イ) 坂井市海浜自然公園のイメージは ※複数回答可



(エ) 休日の過ごし方 ※複数回答可



1-4 課題整理

これまでに取り上げた課題を整理すると、下記の通りです。

【坂井市における課題】

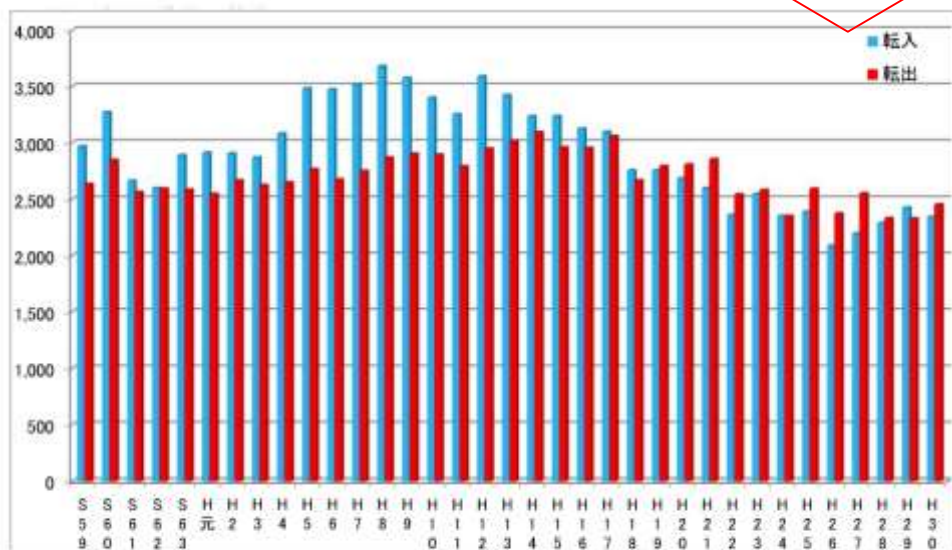
- ・少子高齢化による人口減少問題
- ・観光客の滞在時間の短さ

【坂井市海浜自然公園における課題】

- ・施設の老朽化による安全性・快適性の低下
- ・複雑な利用動線
- ・リピーターの確保
- ・利用客のニーズに合っていない施設・設備

これらの課題を解決するために、坂井市海浜自然公園再整備基本構想を策定します。

平成19年以降、転出者が転入者を上回っており、対策が必要となっています。坂井市海浜自然公園再整備基本構想により、この状況を改善させることに寄与します。



坂井市の社会動態の推移

出典：福井県統計情報課

1-5 課題解決の方針、考え方の整理

坂井市海浜自然公園の抱える課題を解決するためには、老朽化した施設の刷新を進め、利用者動線・安心・安全に配慮し、快適に利用できる公園へと再整備することが必要となります。

誰もが気軽に訪れることができ、楽しめる施設やコンテンツを増やしていくことで利用者の利用目的が明確化されていきます。また、坂井市海浜自然公園へ訪れる理由づけとして象徴的な建築物や遊具の新設、自然を活かした体験活動を提供していき、施設のブランド化を図ることが求められます。

構想イメージ



2 構想の考え方

2-1 コンセプト

コンセプトを策定するにあたり、福井県の教育水準が高いことに着目し(※1)、坂井市海浜自然公園に対し潜在的に求められる要素である「学び」に焦点をあてました。

自然体験活動が青少年の成長に良い影響を与える研究結果(※2)があるように成長期の「学び」は大変重要です。

坂井市海浜自然公園は、より良い「学び」を様々な人に経験してもらう施設として再整備されることが求められ、人間力や協調性、コミュニケーション能力などを高められる体験内容を提供できる場とします。

自然体験等を通してリーダーシップや他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う「相互啓発力」、常識や固定概念にとらわれることなく新しい価値を生み出す「創造力」など自立した人間として力強く生きていくための総合的な力「人間力」を育てていくことが可能となります。

小学生平均正答率
都道府県別ランキング(国語)
全国平均:64.9%

	都道府県	正答率 (%)
1	秋田県	71
1	石川県	71
3	青森県	69
3	福井県	69
5	東京都	68
5	京都府	68
7	富山県	67
7	高知県	67
7	鹿児島県	67

小学生平均正答率
都道府県別ランキング(算数)
全国平均:70.3%

	都道府県	正答率 (%)
1	東京都	74
1	石川県	74
3	富山県	73
3	福井県	73
3	京都府	73
6	秋田県	72
6	愛媛県	72
8	青森県	71
8	兵庫県	71



※1.文部科学省「令和3年度 全国学力・学習状況調査」
<https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/factsheet/prefecture-City.html>

※2.文部科学省「令和2年度青少年の体験活動に関する調査研究結果報告」
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00738.html

2-1 コンセプト

再整備を考えるうえでのキーワードは「学び」です。坂井市海浜自然公園が誇る自然環境を存分に活かし、「アウトドア」を軸とした自然体験などの学びを提供していきます。

本来の公園施設として欠かすことのできない利用者の利便性に関する遊具等は「安心・安全」に配慮し、より利用しやすい施設へとしていきます。



【メインコンセプト】

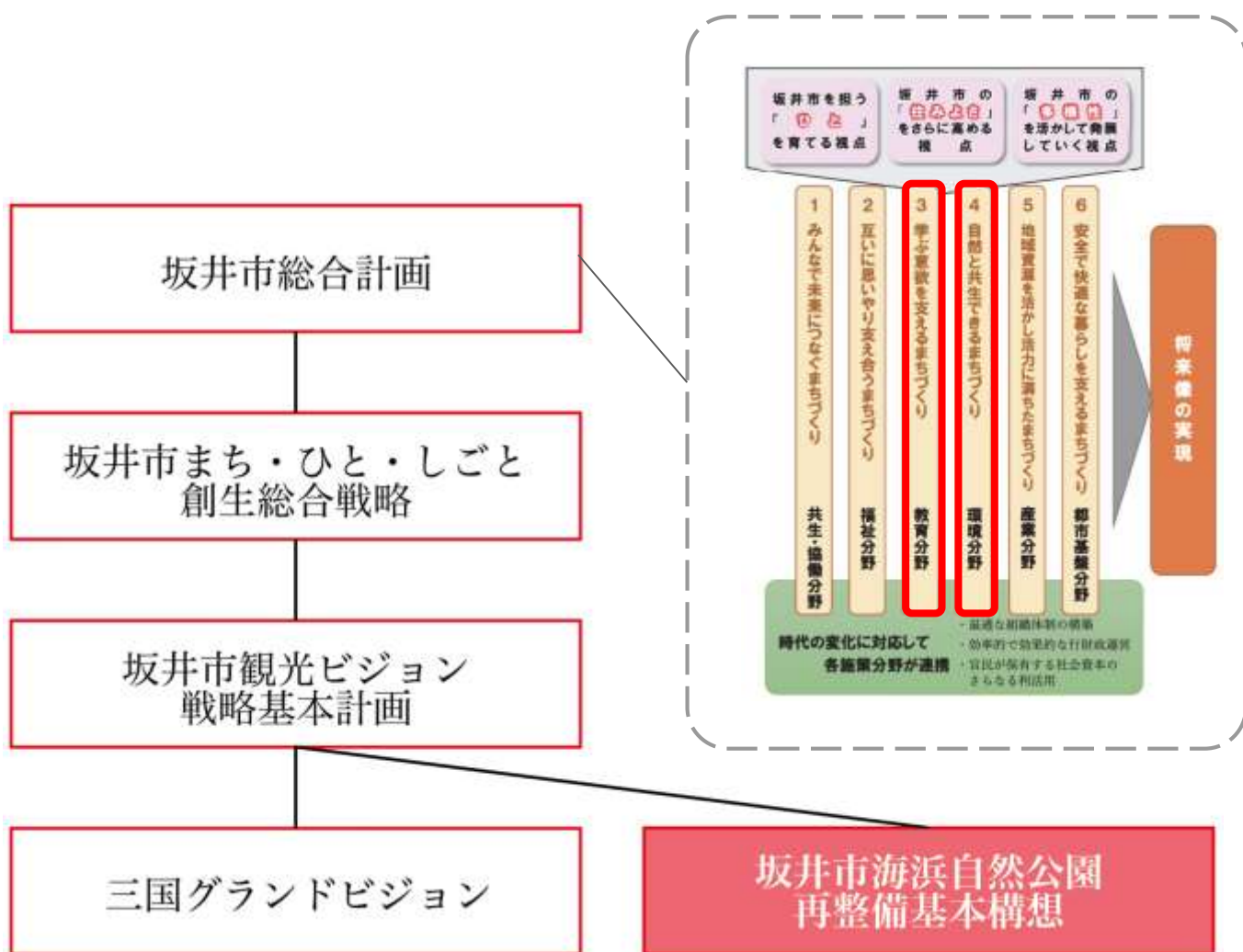
坂井市海浜自然公園



2-2 関連計画との整合性

坂井市総合計画では、将来像「輝く未来へ…みんなで創る希望のまち」と定め、それには福井県第2位の都市にふさわしい魅力と活力を創造し、誇りと愛着をもって暮らせる故郷となることを目指すとなっています。

坂井市海浜自然公園がより魅力的な施設となり、多くの利用客で賑わうことで、地域の価値が上昇し、住民の方々の誇りと愛着が増すことを目指します。



※出典：第二次坂井市総合計画

2-2 関連計画との整合性

坂井市まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げられる「地域の活力を維持し、若者が魅力と生きがいを感じることができる環境づくり」を進める上で重要な施策となると考えます。坂井市海浜自然公園が再整備され、設備の刷新等を行うことにより地域の魅力が向上し、坂井市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標に掲げられております「地域の稼ぐ力を育むとともに、安心して働き、誰もが活躍できる坂井市をつくる」という目標を実現する一助となります。

また、三国グランドビジョンに掲げられている「滞在」の量的改善、「消費」の質的改善、「産業」の構造的改善という目標を実現していくことにも繋がります。「滞在」の量的改善についてはキャンプ場、ロッジ等の整備により滞在者の増加が見込めることで実現します。「消費」の質的改善については、東尋坊と一体的に進めることで、回遊性を向上させること見込め、回遊性が向上させることで、滞在時間・消費行動の増加に寄与します。「産業」の構造的改善については、坂井市海浜自然公園がチャレンジしたい人の受け皿となることで実現します。新設するメイン棟にレンタルスペースを設け、ビジネスでの利用ができるように整備し、新規企業を後押しします。



※出典：三国グランドビジョン

3 再整備基本構想

前述の課題解決の方針に基づき、坂井市海浜自然公園を再整備していくための指針を示します。坂井市海浜自然公園が誇る自然や景観を最大限活かしながら行い、利用者の利便性の向上と安心・安全に配慮した構想とします。

基本構想図



3-1 現況との比較

現況からの大きな変更点は以下の通りです。

現況			構想	
メイン棟	海浜公園センターが担っている	→	メイン棟	機能強化のために移設
駐車場	約200台	→	駐車場	約250台(約50台増設)
キャンプ場	30年以上前に整備した状態	→	キャンプ場	エリア新設
バーベキュー場	施設老朽化が顕著	→	バーベキュー場	ニーズにあった施設へ改修

現況



構想



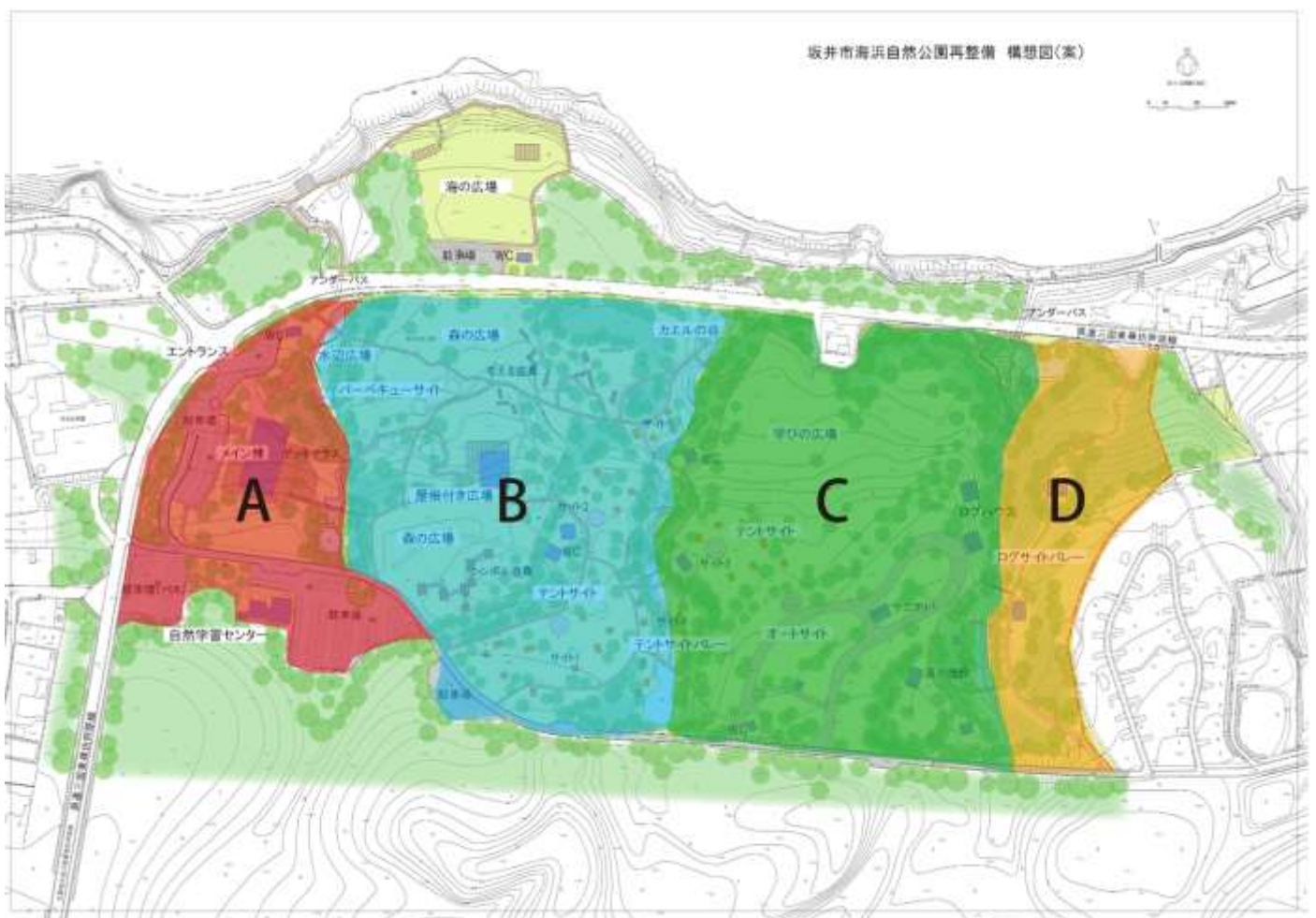
3-2 進行計画

公園施設を西側から4つに区分して計画を進行していきます。第一期計画では、集客の核となるメイン棟の新設とキャンプ場の整備を行うことにより、施設の収入を増やすことが可能となります。戦略的に計画を立てていくことで管理に関わる経費の一部を担うことができます。

第一期計画:A(メイン棟の新設、駐車場の増設、水辺の整備)
B(キャンプ場整備、バーベキュー場)

第二期計画:C(キャンプ場整備、温浴施設の新設、芝生広場、水辺の整備)

第三期計画:D(ロッジの新設、水辺の整備)



3-3 施設について メイン棟

坂井市海浜自然公園を訪れる目的の明確化を進めるにあたり、利用者を迎える玄関となるメイン棟が重要と考えます。民間の事例となりますが、滋賀県近江八幡の「ラ・コリーナ」は年間約230万人(※)の集客があり、シンボル棟のデザイン自体が非常に優秀な広告塔となっています。このようなシンボルとなる建築物によって誘客を図り、公園全体の利用者数を押し上げるだけでなく、坂井市のその他の観光地へ波及させられるような施設を目指します。

※令和2年滋賀県観光入込客統計調査書より



ラ・コリーナ近江八幡(滋賀県)
設計:藤森照信氏

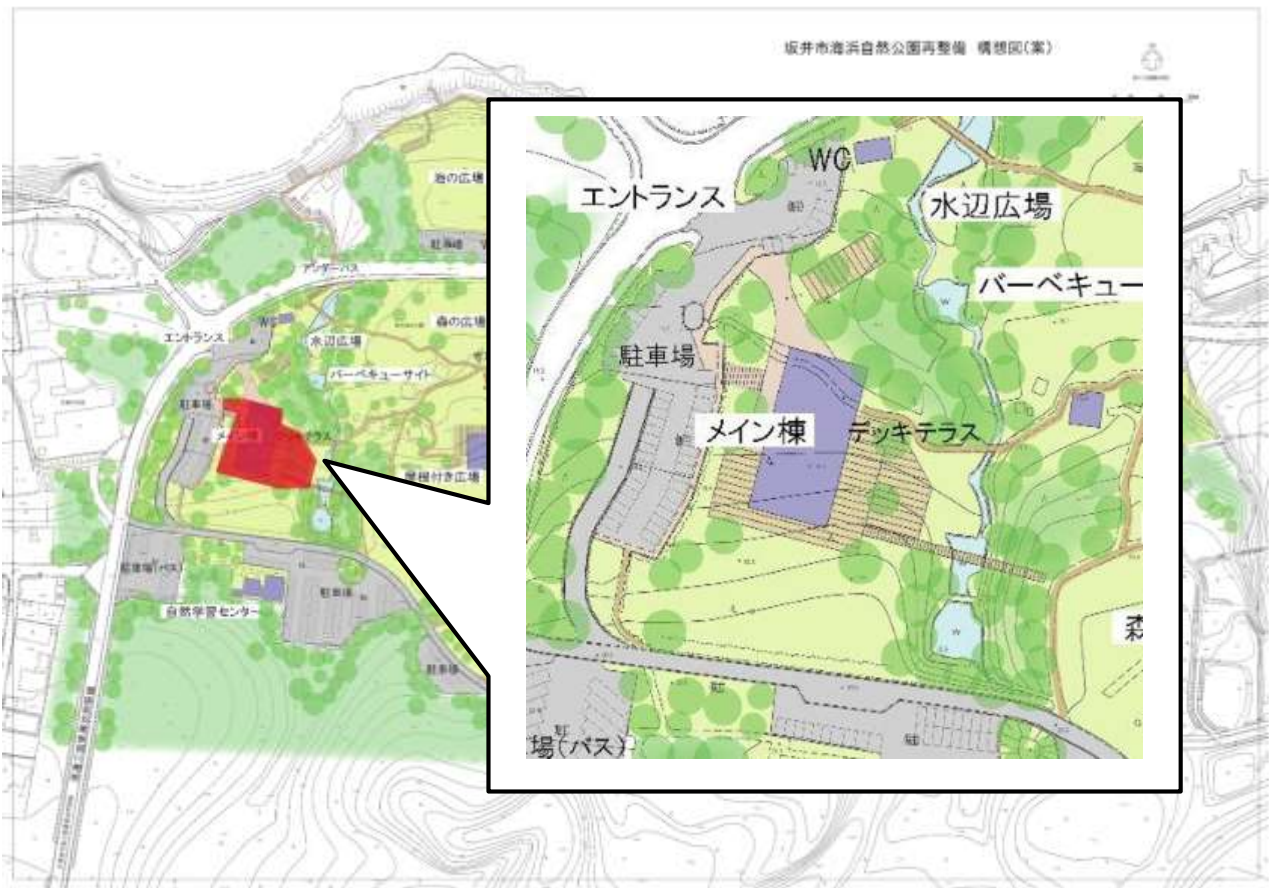
https://taneya.jp/la_collina/about.html



3-3-1 施設について メイン棟:現況比較



現況は木が点在する雑木林となっています。



3-4 施設について キャンプ場

現在のニーズに対応した設備に改修、新設し、県内でも有数の広い敷地を誇るキャンプ場を整備していきます。

近年はアウトドアが流行していることもあり、県内のキャンプ場に限ったことではありませんが、利用者の数に対してキャンプ場の受入可能数が足りなくなっています。坂井市が抱える課題にもありますが、宿泊施設が少ないこともあり需要は十分あるものと考えます。

また、教育研修等での利用も想定した200名規模の受入が可能な施設を整備することにより教育旅行の誘致も可能となります。

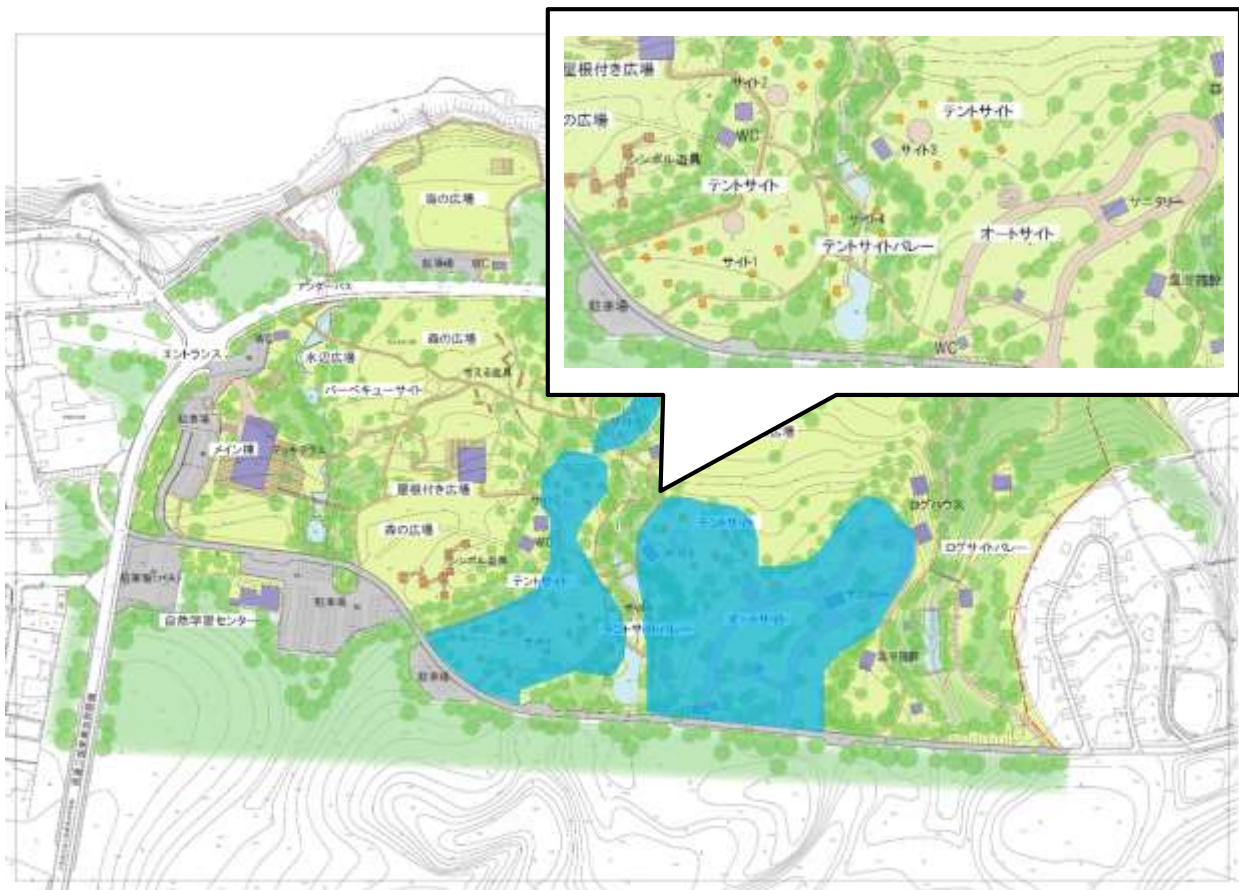
Inn the park Numazu
静岡県沼津市

イメージはキャンプ場ではありませんが、明確な方向性や考え方を参考とします。

<https://www.innthePark.jp/numazu/>



3-4-1 施設について キャンプ場:現況比較



3-5 施設について 駐車場

坂井市海浜自然公園の駐車場は点在しておりますが、利用者の動線としては大きな問題はありません。しかしながら高低差等で利用者がわかりにくい配置となっており、案内標識等を増やすなどの対策が必要です。

また、利用客の増加によって、現在の駐車台数では不足する可能性があります。

そこで、既存の海浜公園センターの建物及び機能に移設させる方法などによって、駐車台数の増加も検討します。



既存の海浜公園センターを駐車場へ改修することで、台数を確保することができます。



赤が既存駐車場 黄色が増設可能な範囲

3-5-1 施設について 駐車場:現況比較



3-6 施設について バーベキュー、屋根付き広場

現況のバーベキュー場の配置は比較的駐車場から近い位置に配置されておりますが、利用者が受付に行き、バーベキュー場へ向かう動線が利用しづらくなっています。メイン棟の移設に伴い、駐車場からすぐのメイン棟で受付し、バーベキュー場へ向かう利用者の動線は利便性が飛躍的に向上します。

また、屋根付き広場を新設し、雨天でのバーベキュー場利用者への対応とイベントや体験活動、体験会などに活用していきます。屋根付き広場はキャンプやイベント時の一時避難場所としての機能も有します。防災の観点からも屋根付き広場を新設することで有効活用ができます。



屋根付き学びスペース
参考施設:「OYANE」
長崎県波佐見町

<https://oyane.jp/>



3-6-1 施設について バーベキュー、屋根付き広場:現況比較



3-7 施設について 公園設備

こどもたちを安心して遊ばせることができる遊具や芝生広場は重要な設備のひとつです。公園施設に整備されることが多いブランコなどの既存の遊具ではなく、コンセプトに沿った、「遊びながら学べる」を実践することができる「遊びを考える」遊具を設置していきます。そのことで人間力や協調性、コミュニケーション能力などの醸成に寄与します。



老朽化が顕著な既存遊具 → 遊びを考える遊具へ



水回り設備の更新

3-8 施設について ロッジ

アウトドアに慣れていない利用者にとって、キャンプ場における宿泊は、経験者がいないと敷居が高いと感じることがあります。そんなキャンプ場に不慣れな利用者にとって、ロッジ等の宿泊・休憩施設は宿泊体験を気軽に始めるきっかけとなります。

ロッジは坂井市海浜自然公園の東側の木立と川のある箇所に利用者のプライバシーに配慮して新設等を考えていきます。各ロッジの間隔を大きくとることでプライベート感が増します。ロッジを整備することにより、災害時の避難場所としての利用も可能となります。



参考施設：A-FrameHouse
山形県飽海郡遊佐町

<https://www.aframe-jp.com/>



3-8-1 施設について ロッジ:現況比較



3-9 施設について 芝生広場

坂井市海浜自然公園には、整備の行き届いた広大な芝生広場を有しており、「学び」を体験することができる場所として活用していきます。デイキャンプや公園内の散策や動植物観察などのアウトドア体験や地域のボーイスカウトの活動に利用してもらい、マルシェや音楽イベント、キャンプイベント等の様々な用途に活かしていきます。



CAMP OF WONDER
坂井市ゆりの里公園



3-9-1 施設について 芝生広場



4 資料 主な現況施設について

設備名称	構造様式	規模、面積	整備年
トイレ	鉄筋コンクリート造	35㎡	平成元年度
海浜公園センター	木造平屋建て	317.99㎡	平成元年度
みくに自然学習センター	木造平屋建て	279.61㎡	平成15年度
バーベキュー棟A	木造平屋建て	51.84㎡	平成10年度
バーベキュー棟B	木造平屋建て	51.84㎡	平成10年度
バーベキュー棟C	木造平屋建て	51.84㎡	平成10年度
炊事舎	木造平屋建て	38.88㎡	平成10年度
野外炉	コンクリート造	15基	平成10年度
花菖蒲園		㎡	昭和58年度
トイレ	鉄筋コンクリート造	45.8㎡	平成元年度
炊事棟	RC造	29.16㎡	昭和63年度
炊事棟1	木造平屋建て	19.6㎡	昭和50年度
炊事棟2	木造平屋建て	19.6㎡	昭和50年度
キャンプ場	テントサイト40基	8,000㎡	昭和50, 63年度
ゴミ置場	RC造	8.1㎡	昭和63年度
倉庫	木造平屋建て		昭和53年度
倉庫	木造平屋建て		昭和55年度
倉庫	プレハブ造平屋建て	49.14㎡	昭和54年度
倉庫	木造平屋建て		
倉庫	コンクリートブロック造		
遊具広場(遊具)			昭和52, 53年
トイレ		33㎡	昭和55年度
休憩舎(パーゴラ)	RC造		
湿性植物園		3,000㎡	昭和52, 56年度
花木園			
トイレ		34.1㎡	平成12年度
藤棚			
水辺広場			
ログハウス	木造平屋建て	72㎡	平成5年
休憩舎	木造平屋建て		
トイレ	鉄筋コンクリート造	35㎡	平成元年度
休憩舎	木造平屋建て		
休憩舎	木造平屋建て		